

# 「本格復興」へ 希望の芽を 大きく育てる年に

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、お一人お一人それぞれの思いを胸に新しい年をお迎えのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

昨年は「復興加速年」として、全国からの派遣職員の皆様のご協力をいただき、復旧・復興に努めてまいりました。おかげさまで、ハード面に関しては4か所の復興公営住宅（上中島・野田・花露辺・大石）が入居できるようになり、被災した21地区で土地整備事業に着手することができました。また、復興道路・三陸沿岸道路と復興支援道路・東北横断自動車道釜石秋田線も着工しました。

ソフト面では9月に、近代製鉄の発祥を物語る当市の橋野鉄鉱山を構成資産として含む「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」のユネスコ世界文化遺産への推薦が決定しました。

また、市民団体の活動にも復興の兆しが見られます。震災以降途絶えていた恒例の「釜石よいさ」、「釜石市民劇場」、「釜石まるごと味覚フェスティバル」が3年ぶりに復活し、加えて、市内中学生の手紙がきっかけとなって開催が実現した「SHIBUYA109 in KAMASHI」の取り組みも、大きな話題となりました。いずれも多くの

の人たちでにぎわいましたが、こうした市民が一つになれるイベントは、以前の暮らしを取り戻し、復興を成し遂げるための希望の光になると感じています。このように、多くの市民のご協力をいただき、少しずつではありますが復興に向けた芽が出始めた年だったと思います。

しかしながら、被災された多くの皆様が仮設住宅での不自由な暮らしを余儀なくされておりますし、まだ不安な思いで生活されている方がたくさんおられます。本年は、「復興まちづくり基本計画」における中期の最初の年となりますので、被災された方々お一人お一人の気持ちに寄り添いながら、今年こそ本格的な復興に向けて、皆様が安心して暮らすよう取り組んで参ります。

復興公営住宅は、間もなく平田126戸、箱崎白浜9戸を加え3月までに計237戸入居できるようになりますし、今年中に8カ所・約370戸が完成する予定です。民間事業者からの「買い取り」や「借り上げ」制度などを活用し、被災者の目線に立ってさらにスピード感ある整備に努めていきます。併せて、被災された皆さんが住宅や生活再建などで、今後の方向性を定めていけるよう取り組むとともに、見守り対策をはじめ、高齢者が安心して暮らせるまちづくり、将来を展望した事業に全力を尽くします。

この春、市の中心部に大型商業施設がオープン予定となっております。同施設を核として、新たな商業空間と公共施設を効果的に配置し、新しい市街地の顔にしていきたいと考えています。さらには、待望のJR釜石線でのSL運行や三陸鉄道南リアス線の全線復旧なども相まって、人やもの、情報の交流拡大が見込まれます。

少しずつ出始めた希望の芽を大きく育て、花を咲かせる「本格復興」の年として、次世代に誇りうる持続可能なまちづくりに取り組みますので、市民の皆さんのご支援・ご協力をお願いいたします。本年がよい年となりますよう祈念申し上げます。



釜石市長  
野田 武則



一日も早い住まいの再建に全力（昨年12月に完成・入居開始となった大石復興公営住宅）



物流拠点へ…飛躍的に増加した釜石港のコンテナ取扱量